

当報告の内容は著者の著作物です。

Copyrighted materials of the author

第4回（通算第17回）基幹研究「人類学におけるマイクロ-マクロ系の連関」公開セミナー

平成24年7月19日（木）15:00-19:00 AA 研 306 号室

「1981年～1986年マダガスカルにおける画像表現：tantara an-tsary の生成と消滅における manga と bande dessinée」

深澤 秀夫（AA 研）

マダガスカル語でマンガを、「絵のついた物語」（tantara an-tsary）と呼ぶ。マダガスカル語辞典では tantara の単語に「歴史（histoire）、物語（récit）、伝説、伝説上の語り」の訳語を、sary に「絵、肖像、似たもの」の訳語を充てている。この単語の意味からも、マダガスカルのマンガにおいては、画像と物語のそれぞれが並置していることが読み取られる。

この単語によって呼ばれる最初の画像表現は、1961年～1962年にかけて出版された *Ny Ombalahibemaso* である。これは18世紀のイメリナ王国（Imerina）の实在の王の生涯を描いた作品であり、Rahajarizafy による同名の小説に、Ramamonjisoa Jean が絵を描いており、「絵のついた物語」と言うマダガスカル語の名称を体現している。また序文によれば、同書が初等教育レベルの歴史の副読本を目的に作成されたことがわかる。このため本書には、画像と共に台詞も多く書き込まれており、画像と物語がほぼ同等の比重をもって配置されている。この作品に続く tantara an-tsary の類書は、同時代には現れなかった。

その後、1981年～1986年の間に、tantara an-tsary 雑誌の創刊と出版が相次いだ。この出来事背景には、1972年から始まった政治・行政・経済・教育などにおけるマダガスカル化とその失敗がある。「マダガスカル人の手によるマダガスカル国家の運営」が実現したにもかかわらず、全ての事態が何も改善されなかったばかりかむしろ悪化したことに、知識人を中心に当時のマダガスカル人の多くが深い失望感を露わにしていた。そのような中で、紙とペンとインクだけで自分たちマダガスカル人の多くが参加できると期待された新しい表現様式としての tantara an-tsary に、注目が集まったのである。

結論を先に述べるならば、マダガスカルの文学や絵画や演劇における市場成立の難しさと言う共通の問題を別にした場合、tantara an-tsary の画像表現がマダガスカルの文化的脈絡に定着しなかった理由は、画像と物語を融合しきれなかった点に求められる。フランスのバンドゥ・デシネ（bande dessinée）は、「絵の帯」の名に示されるように、連続コマとしての継起性と筋書きを不可分のものとして成立している。その影響の下に生成した tantara an-tsary もまた、創成期からバンドゥ・デシネの作画法を忠実に模倣していた。両者の作画法上の共通の特徴は、彩色と均等なコマ割りである。しかしながら、社会主義政

策の失敗による日用品の窮乏期にあった当時、マダガスカルにおいて彩色画像を印刷・出版し続けることは困難であった。一方、均等なコマ割りは、絵と物語の等価性を確保する上では有効であっても、画像表現の独自性を保証することはなかった。

これに対し、日本における留学経験をもつ機械設計技師 Rakotomalala が、Fararano Gazety 誌を中心に作品を発表し、日本のマンガにおけるコマ割り表現およびスクリーンを用いた陰影画法の導入を積極的に図った。この試みは一部の若い tantara an-tsary 作家に確実に影響を与えたものの、tantara an-tsary がバンドゥ・デシネの模倣を脱することはできなかった。5年と言う期間は、日本のマンガに基づく画像表現が定着する上でも、あるいはフランスのバンドゥ・デシネの模倣がマダガスカルの娯楽文化に定着する上でも、何れにとっても短すぎた時間であった。

そのような中で、1983年に創刊された *Tsaina* 誌に寄稿し活躍した R.Max による *Ranomanitra* (「香水」と *Zoly* (女性主人公の名前) の二作品は、注目に値する。なぜなら、彼の作品は、日本の少女マンガあるいは女性作家のマンガと共通する独自のコマ割りおよび彩色ではなくスクリーンによる陰影画法を駆使し、主人公の感情表現と心象風景を描くことに成功しているからである。もし、tantara an-tsary を現代のマダガスカルに今一度蘇らせるとするならば、このような表現法に基づく画像と物語の融合しかありえないであろう。

1986年以降、テレビ受像機の普及と放送局の複数化、各国製アニメーションの流入、ビデオ映像を用いたマダガスカル製映画 (*filma gasy*) の増加、VCD 媒体による画像の量販化が急速に進み、消費者がかつて tantara an-tsary に求めたアクションや笑いなどの娯楽的要素は、これらの情報媒体によって全て代替ないし吸収されてしまっている。現在、当時の tantara an-tsary に連なる画像表現は、新聞の一コママンガおよびキリスト教の布教を目指した殉教者や福者の歴史絵物語の分野においてわずかに残されているにすぎない。これらのことも、バンドゥ・デシネの模倣から始まった tantara an-tsary において、画像と物語の融合が最後まで達成されなかったことを示している。もはや、バンドゥ・デシネの模倣としての tantara an-tsary が、マダガスカルの娯楽の世界で占めることのできる場所は残されていない。

以上の結果、tantara an-tsary の時代は1981年から1986年の5年間だけにとどまり、tantara an-tsary は日本文化におけるマンガの位置づけも、あるいはフランス文化におけるバンドゥ・デシネの位置づけも、その何れをもマダガスカルの文化的脈絡の中で獲得するには至らなかったのである。